

第3回国連防災世界会議において災害保険に関するパブリック・フォーラムを開催しました (2015/3/16)

テーマ：産学連携、グローバルリスク
 場所：川内北キャンパスB棟 200 教室

平成 27 年 3 月 16 日（月）に、「東北大学・東京海上日動産学連携研究成果発表会」と題してパブリック・フォーラムを行いました。まず、災害科学国際研究所の今村文彦所長が「グローバルリスクと IRIDeS の役割」について講演し、サッパシー・アナワット准教授、福谷陽助手、安倍祥助手（以上、寄附研究部門）と保田真理助手（災害リスク研究部門）がそれぞれ、津波被害関数、津波ハザード評価、減災教育、津波避難について講演しました。続いて、世界の保険会社約 80 社の CEO で構成される保険業界のシンクタンク組織であるジュネーブ協会主催のパブリック・フォーラムが、「Insurance as contributors to problem solving and impact reduction」と題して開催されました。セッションは東京海上日動火災保険株式会社取締役会長 隅修三氏の開催挨拶で始まり、その後、国連国際防災戦略事務局長 Margareta Walstrom 氏より基調講演がありました。セッションは 3 つに別れ、1. 「How can insurance industry's wealth of knowledge better serve societal resilience?」、2. 「How can the insurance industry navigate community actors to behave risk consciously?」、3. 「How can insurance mechanism be better utilized as an effective social system to enhance DRR?」の順にパネルディスカッション形式で行われました。サッパシー准教授は、寄附研究部門 地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門による研究活動の結果を紹介し、アカデミックの立場から保険会社に貢献できる事について発言しました。午前中のセッションは河北新報に掲載されました。
http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201503/20150316_13052.html



今村所長による講演の様子



保田助手による講演の様子



国連国際防災戦略事務局長によるスピーチ



パネルディスカッションの様子